

「とうきょう すくわくプログラム」 ～主体的・協働的な探究活動を通じ、子供の豊かな心の育ちをサポート～

- ✓ 各園の環境や強みを活かしながら、「光」「音」「植物」など各園が選択するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践
- ✓ 2023年度のベータ版プログラムの実践を踏まえ、探究活動の実践のための工夫や子供の好奇心・探究心を高めるヒントを具体的な活動事例とともに完成版プログラムに取りまとめ、2024年度より全域展開

プログラムのコンセプト

子供は日々の遊びの中で、興味・関心の幅を広げながら、子供を取り巻く世界を「探究」し成長しています。「とうきょう すくわくプログラム」では、子供が何に興味・関心をもっているのか、子供が遊びの中でどのような発見をしているのか、保育者が子供の姿を丁寧に受け止め、**ねらいや意図をもって「探究」を促す**ことで、非認知能力の育成等、**乳幼児の成長・発達をサポート**していきます。

子供は、日々の遊びの中で、**無意識に「探究」を積み重ねながら成長**

プログラムの活用によって、単なる「遊び」にとどまらず、**ねらいや意図をもって「探究」を実践し、「探究」プロセス全体の質を向上**

好奇心を抱くきっかけを**増やす**

思考のループを**広げる**

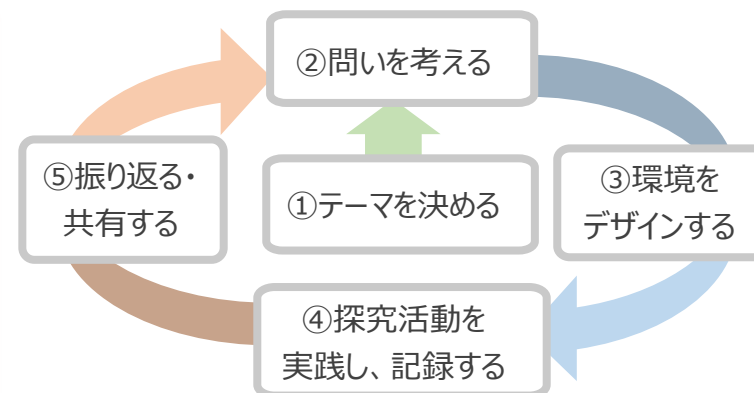
思考のループを**深める**

生涯発達の土台形成

多様な他者との関わりの中で、主体的に「探究」のプロセスを積み重ねることで、意欲・自己肯定感・社会性等の**非認知能力**を培う

「探究活動」の流れ

- ✓ 各園の環境や強みに応じたテーマを設定し、テーマに応じた素材や道具を準備することで子供たちが遊び込める環境を整えます。
- ✓ 子供たちは、子供同士や保育者との関わりの中で、**自ら興味をもって試し、考えながら「探究」を重ねていきます。**
- ✓ 保育者は子供の問いに対し、単に答えを与えるのではなく、声掛け等の関わりによって**一緒に「探究」を深めていきます。**また、活動を振り返り、子供の好奇心・探究心を更に促せるよう、探究活動のデザイン・実践を繰り返します。



とうきょう すくわくプログラム推進事業

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

とうきょう すくわくプログラム（ベータ版実践）

2023年度の実践成果

都内4つの連携自治体の実践協力園14園において、各園の環境や強みを活かしながら、乳幼児の成長・発達段階や興味・関心に応じた探究活動を実践しました。

- 2023年5月 ベータ版プログラム実践に係る連携自治体を公募
- 6月 連携自治体を決定
- 7月 都内全ての園及び自治体職員向けにシンポジウムを開催
（乳幼児期の「子育て」シンポジウム～探究のめばえ～）
- 9月～ 連携自治体における実践協力園にてベータ版プログラムを実践
- 2024年3月 実践報告会の開催・完成版プログラムの策定

実践協力園 内訳

連携自治体	幼稚園	保育園	合計
港区	2	2	4
渋谷区	1	1	2
江東区	1	2	3
福生市	1	4	5
合計	5	9	14

多様な実践テーマ例

光

- ✓ 水や紙など様々な素材を光に照らし、反射する光や浮かび上がる影の形を楽しむ など



影

自然

- ✓ 山や森、園庭の自然などに触れ合いながら、葉や木の実の色の違い、形の違い、土や泥の感触、形状の面白さなど、様々な身の周りの自然を体感
- ✓ 子供たちが感じた自然を、絵や言葉など様々な形で表現 など

植物（オリーブ・柿の木）

泥・砂遊び



色

- ✓ 子供同士で様々な色を重ね合わせ、色の変化を楽しむ、様々な色作りに挑戦 など
- ✓ 絵本の世界に入り込んで、子供の想像する絵本の世界を絵で自由に表現 など

絵本

音

- ✓ 身近な音を題材に「この音は何だろう」「音ってなんだろう」という問いをもとに、楽器などを使い、子供同士で音を楽しみながら、振動を感じる、音を身体や絵で表現 など

楽器



とうきょう すくわくプログラム推進事業

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践協力園での具体的な取組

光

福生市

なんだろう？

0歳児が普段の保育の中で、部屋に差し込む光や、水に光が当たって輝く様子などに興味を示していたことから、「光」をテーマにしました。

水で満たされたアクリルケースと照明を使って、光が反射して揺らめく様子、沈めたボトルの中から出る泡、水しぶきやしずくなどを、保育者と共に観察しました。



また、照明と様々な種類の紙を用意し、影を観察したり、紙を丸めたり、くしゃくしゃにしたり、手触りや音の違いを発見しました。

0歳児の子供たちは真剣な表情で自ら試し、様々なことを発見していました。



音

渋谷区

どうなるかな？

生活に欠かせない「音」をテーマに、「音ってなんだろう？」という保育者の問いかけから、4歳児が様々な種類の楽器に触れながら「音」を探究しました。

音が出る仕組みについて考えたり、お互いの音を聴き合いながら音の大小や音色の違いを楽しみました。



さらに、保育者の「どんな音が好き？」「心地よい音ってどんな音？」などの問いかけにより、子供一人ひとりが音をどのように感じているかをみんなで共有し、音について考えを深めました。



とうきょう すくわくプログラム推進事業

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践協力園での具体的な取組

絵本

すごい！たのしい！

江東区

絵本の読み聞かせを重視している園では、5歳児がお気に入りの絵本をテーマに活動を行いました。

長い紙と絵の具を準備し、子供たちが絵本の内容からイメージした世界を自由かつ大胆に表現しました。子供同士の対話の中で、ストーリーにはない想像の世界が膨らんでいきました。



↑ プロジェクターで絵を投影し遊ぶ様子

また、子供たちが描き上げた絵をプロジェクターで部屋に投影することで、一人ひとりが物語の主人公となり、全身で物語の世界に入り込みながら、絵本を通じて経験した感情を夢中になって表現しました。

自然

港区

もっとやりたい！



また、プロジェクターを使って、一つひとつ異なる色や形を持つ葉っぱ、実などがどのように映るか試したり、映し出された植物を「基地」や「幼稚園」などに見立てて物語を作るなど、自分たちで自由に遊びを生み出しました。

園庭遊びが大好きな4歳児の子供たちが自然をテーマに活動を行いました。

「自然って何だろう？」という保育者の問いかけから、子供たちは葉っぱ、花、ぶどうの実、種など、たくさんの自然を園庭で見つけ、感触、におい、色など五感を使って感じ取りました。そして、子供たちが見つけたそれぞれの自然をみんなで共有し、自然からイメージした絵を様々な色で作って描きました。



とうきょう すくわくプログラム推進事業

これまでのアクション・子供の意見反映等の取組

ベータ版プログラム実践に携わった園の先生の感想

- ・子供の**普段見られない一面**を知ることができてよかった。
- ・子供に対する**目線や捉え方**を見直すきっかけになった。
- ・子供たちの「なぜ?」「なに?」に目を向けることの**大切さ**を再確認した。
- ・子供の**楽しそうな姿がエネルギー**になり、次はこんなことをしたら楽しいんじゃないかという発想が生まれてくる。
- ・こうやって自分たちで考えて探究していくことが、**子供が本来持っている力を発揮できる機会**になるのではないかと思った。
- ・継続的にこういう活動ができるようにしたい。



実践後の振り返りの様子

保護者の感想

- ・子供の**自由な発想**に驚かされた。
- ・子供たちの**気持ちと言葉の豊かさ**に感動した。
- ・活動の時の思い出をたくさん話してくれて、**楽しんで取り組んだ様子が分かって嬉しかった。**
- ・**園だからこそできる、家ではできないような活動**をできるのがよい。



2024年度の方角性

2023年度のベータ版プログラム実践における意見を踏まえ、**完成版プログラムを策定し、2024年度より「とうきょう すくわくプログラム」を全域展開していきます。**